横浜市立 葛野小学校　　令和5年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「未来を拓く　健やかな　葛野の子」
〇ともに学び合い、ねばり強く取り組める子を育てます（知）
〇よいこと、悪いことをきちんと判断し、責任をもって行動する子を育てます（徳）
〇心と体をきたえ、自分やひとの命と体を大切にする子を育てます（体）
〇人や自然を大切にし、思いやりをもって共に生きる子を育てます（公）
〇多くの人とコミュニケーションを通して、考え、深めあえる子を育てます（開）

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
〈コミュニケーション能力〉 〈問題発見・解決能力〉 〈自分づくりに関する力〉	問題を発見する力　結果の検討をする姿勢 主体性・積極性　自分らしさを発揮しようとする姿勢

中期取組目標

〇職員一人ひとりの力を発揮していくとともに、チームで「未来を拓く健やかな葛野の子」を育てます

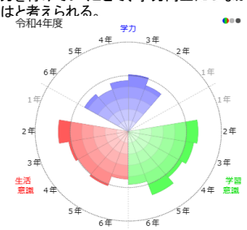
・自ら学ぶ力を身に付けると同時に家庭学習の充実を図り、基礎・基本的な知識・技能の習得、その活用力を育てます
・道徳教育の充実と生活指導を通して、他者と共存する規律ある態度の向上をめざします
・「早寝　早起き　朝ご飯　元気なあいさつ　外遊び」のスローガンのもと、健康でたくましい心身の育成を図ります
・積極的に地域と関わり、まちとともに歩む学校づくりを推進します

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知 担当　教育課程部・情報広報部	①40分授業の実施に向け、学習計画を改善するとともに、教科分担制も活用しながら児童一人ひとりが主体的に資質・能力を身に付けていくことができるように、授業改善を図る。②ICT担当を各学年に置き、ICT支援員との更なる連携を図りつつ、GIGA端末を活用したカリキュラムを推進し、個別最適な学びの充実を目指す。

学力向上に関わる本校の状況

（1）学力に関わる児童の実態
・新4年は、前年度より学力の向上が見られる。新5年、新6年は、前年度と比べ、学力の低下がみられる。
・全体として、市平均より下回っている状況にある。
・課題を的確にとらえ、必要な資料等を取捨選択しながら自分の考えをまとめたり、説明したりする力がまだ十分についておらず、それが国語以外の各教科にも影響していると考えられる。
・学習意識や生活意識は市平均より高いので、より主体的に学ぶ力を身に付けていくこと、コミュニケーション能力を付けていくことで、学力向上につながってくるのではと考えられる。



（2）これまでの学校の取組状況
・小グループでの話合い活動や交流の機会を各教科で取り入れ、自分の考えを発信したり、相手の意見との相違点を見出し、新たな考えをまとめたりする力を高められえる学習内容を工夫してきた。
・GIGA端末を多様な場面で用いて、調べ活動やまとめる活動、自分の課題を発見する活動に活用できるようにしてきた。

今年度の目標

学びの中で主体的に発信したり共有したりする場を設けることで、コミュニケーション能力を高めるとともに、自ら問題を発見し、解決する力を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン

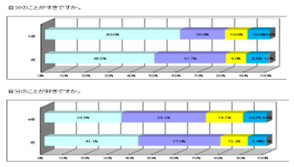
上半期	〇「自ら考え、伝え合う児童の育成」をテーマに、粘り強く学ぼうとする力や、自分の知識や経験を生かして学習の仕方を調整できるような力を身に付けることができるような授業改善を図る。 ・「スキルアップデー」を設け、教員一人ひとりが授業改善したり、個の研究や実践を職員全体に広げていったりできる時間を確保する。 ・1コマ40分授業における学習計画の改善を具体的に考えていくとともに、日々の授業改善や年間を見通した授業公開や実践提案ができるよう、計画的に研究を行っていく。 〇GIGA担当を中心とし、各学年のめあてをもとに、iCT機器を活用していく。 ・ロイロノートやカメラを使用し、GIGA端末の活用スキルを身に付けるとともに、教科学習の充実を図る。
下半期	〇「自ら考え、伝え合う児童の育成」をテーマに、粘り強く学ぼうとする力や、自分の知識や経験を生かして学習の仕方を調整できるような力を身に付けることができるような授業改善を図る。 ・放課後に会議を設けない日を設定し、更に教員一人ひとりが授業改善したり、個の研究や実践を職員全体に広げていったりできる時間の確保を継続する。 ・実践を積み重ね、育てたい資質能力が身に付いているかを検証して児童の実態をとらえ、課題点やよかった点等をまとめ、次年度へつなげることができるようにする。 〇GIGA担当を中心とし、各学年のめあてをもとに、iCT機器を活用していく。 ・日々の学習の中でタイピング練習を行うことで、考えの発信や共有が、よりスムーズにできるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当　人権部・道徳部	①各教科領域を通した教育活動を人権教育と関連付け、考え方の違いが分かり共感・共生できる感性と自己肯定感の育成を図る。②学級・学年・たてわり活動や総合的な学習等での外部講師との関わりを通したコミュニケーション活動の場を充実させ、他者の気持ちを考え、違いを認め合い、尊重できる関係づくりができるようにする。

豊かな心に関わる本校の状況

（1）豊かな心に関わる児童生徒の実態
・学状「自己肯定感」に関わる質問項目については学年間の差が大きい。成長段階が関係し、高学年になるほど低下している傾向がある。
・学状「コミュニケーション」に関わる質問項目では、2～3割の児童が相手と言葉や文字で気持ちや考えを伝えあうことがどちらかというと嫌いであるという結果となっている。
・よさを発揮できずに「どうせ自分なんて」と自己有用感が低い児童が少なからずいる。



（2）これまでの学校の取組状況
・相互承認による「自己肯定感の育成」を目指し、授業力向上・学力向上につながる研究研修を行った。
・豊かな情操を育てられるよう、今できることの中で工夫して行事を行うことができた。
・各種アンケートや日々の子どもたちの様子の細やかな見取りから、困り感を早めに察知し、児童指導専任をはじめとして学校全体で組織的に対応した。
・人権週間の設定・人権教育推進校としての取組を行うことで自他ともに認め合う子どもの育成を目指した。

今年度の目標

すべての教育活動を通して互いに認め合うことができる場を意識的に取り入れることを通して、共感・共生する感性を育成し、自己有用感を高められるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	〇SSCを中心とした行事を通して、できるようになるという自己実現、力を合わせる体験等を通して自己有用感を高められるようにする。 〇4～6年生の宿泊体験学習の集団活動を通して友達とのふれあいを深め、規律・責任感・協力などの姿勢を育てる。 〇道徳の時間の充実を図り、教材を通して集団や社会の関係性を考えられるような道徳教育を推進していく。 〇ypやいじめアンケートを活用し、学級風土に合った取組みを行う。自己有用感を実感することのできる活動を意識的に取り入れることで、自己肯定感を高められると考えられる。
下半期	〇児童の問題意識を明確にし、道徳的価値に照らした考えをもつことできるような道徳科の授業を行う。 〇特別支援研修等を通して、人権感覚の豊かな教職員の育成を図る。人権週間の期間を軸として児童の人権意識を高める。 〇総合的な学習等で外部講師とのコミュニケーション活動の場を意図的につくり、多様な他者とのかかわりの中で、自他を認め合えるようにする。 〇たてわり活動の機会を増やし、ペア学年とのふれあいの中で、自己有用感や自己効力感を高められるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体 担当　体育部・特活部	①子ども自身が視覚的に課題把握や問題解決ができるように、ICT機器（できれば3年生以上）や掲示物、学習カードなどを工夫し、互いに伝え合い高め合える場を設ける。②子どもの主体性・積極性を高められるように、いきいきキッズを年2回、長縄集会を年2回行う。チャレンジ縄跳び（リズム縄跳び）は年間を通して行う。

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
・「自己肯定感」に関わる質問項目については学年間の差が大きい。
・生活意識調査では、「体を動かすこと（運動すること）は好き」と答える児童の割合が、高学年において横浜市の平均と同じであり、低学年においては市の平均より高い結果となった。また、「自主的に運動・スポーツをする時間をもちたい」と考える児童はほとんどの学年で横浜市の平均より高い結果となった。

・体育科基本調査では、4年生以上のアンケート結果から、体育が楽しいと感じるときはどんなときかという質問に対して、「できなかった技や動きができた時」と答える割合が多かった。
・高学年児童は委員会活動の常時活動で休み時間を費やしてしまったり、学習の時間にあてたりで校庭で運動できなかったりすることがある。

(2)これまでの学校の取組状況
・休み時間に校庭で体を動かす児童と教室で過ごす児童の二極化が見られる。
・クラスレクや長縄集会に向けた練習など、きっかけがあるとみんなで校庭で活動することができる。

今年度の目標

・学習教材やタブレット端末を効果的に活用する。
・委員会活動を中心とした取組を企画・発信し、全校で実践する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	〇体育学習において、学習カードやタブレット端末・学習掲示などを活用して、自己の課題を発見する力を高める。 低学年：主体的に運動を楽しむ態度を身に付ける。 中学年：タブレット端末や体育読本などを活用し、自己のめあてを設定し、振り返りをする。 高学年：学習カードやタブレット端末・学習掲示で自身や友達の課題について把握したり、共有したりする。 〇体育委員会を中心にして、全校での取組について企画・計画し、実践する。 ・「チャレンジなわとび」 なわとびカードの活用 〇本校の健康課題について考え、一年間の取組目標を設定する。学校保健委員会や保健委員会などを通して全校に発信し、実践を推進する。
下半期	〇体育学習において、学習カードやタブレット端末・学習掲示などを活用して、自己の課題について解決する方法を見出す。 低学年：学習カードやタブレット端末の活用の仕方を知り、めあてをもって学習に取り組む。 中学年：タブレット端末で手本の動画を見る。自身の姿と比較し、自己の課題を発見する。 高学年：視点をもって友達と見合ったり、タブレット端末を利用して自己課題の解決に向けて練習する。 〇体育委員会を中心にして、全校での取組について企画・計画し、実践する。 ・「チャレンジなわとび」 なわとびカードの活用 ・「いきいきキッズ」 ・「長縄集会」 〇健康推進に関する取組目標について、各クラスで実践した結果を振り返る。保健委員会が中心となって分析・発信し、来年度の取組につなげる。